

令和3年度第6回阿波おどりネットワーク会議 議事概要

日時：令和3年12月23日（木曜） 午後3時～

場所：徳島市中央公民館7階 大ホール

議題：阿波おどり事業運営体制等検討委員会報告書について

出席者：委員10名

内藤座長（徳島市長）

利穂委員（徳島県観光政策課長）

鈴田委員（徳島市経済部長）

矢田委員（一般財団法人徳島県観光協会 理事長）

山田理事長（阿波おどり振興協会 会長 朝日委員代理）

池田委員（徳島県阿波踊り協会 副会長）

喜多会長（徳島県阿波おどり保存協会 理事長 七條委員代理）

森浦委員（徳島県旅館ホテル生活衛生同業組合 理事長）

木内委員（徳島商工会議所青年部 会長）

鈴江委員（徳島都市開発株式会社 代表取締役社長）

【会議の内容】

1 開会

2 議題 阿波おどり事業運営体制等検討委員会報告書について

（内藤座長）

本日は、年末の大変お忙しい中、ご出席いただきをありがとうございます。

徳島市では、「2021阿波おどりニューノーマルモデル」の開催準備と並行して、本年5月に有識者で構成する「阿波おどり事業運営体制等検討委員会」を設置し、これまでに計6回の会議を開催して、観光協会と徳島新聞社の共催による阿波おどり事業をはじめ、徳島市主体の実行委員会、阿波おどり事業の民間委託など、これまでの阿波おどり事業の運営体制等の課題や、新たな運営体制の検討について、財政・法律・会計それぞれの専門的、かつ中立的な視点から検証を進めてまいりました。

この度、11月24日に検討委員会から報告書が提出され、来年度以降の阿波おどり開催に向けた、持続可能な阿波おどりを実現するための新たな運営体制についてご提案いただきました。

今後、本市におきまして、検討委員会からいただいた報告書をもとに、徳島の宝である阿波おどりを次世代に、そして、未来に受け継いでいくために、新たな運営体制の構築を進めてまいりたいと考えております。

今後の阿波おどり事業を、具体的に、どのように運営するかについては、報告書でご

指摘いただいたように、徳島市長である私を含め、当事者である市民の手で実現していく必要があると考えております。

委員の皆様におかれましては、阿波おどりに携わってきたこれまでの経験や幅広い分野の知見から、新たな運営体制の構築などについて、忌憚のないご意見を頂戴できればと考えております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、はじめに、本日の議題としております「阿波おどり事業運営体制等検討委員会報告書」について、事務局から説明をしてください。

(事務局)

資料1 阿波おどり事業運営体制等検討委員会の報告書について説明。

(内藤座長)

報告書では、来年度以降の阿波おどり事業の運営について、「徳島市民による市民のための阿波おどりであることが最優先されるべきであり、その実現のために、地域における多様な属性・世代の人々が主体的に関わって作り上げる運営体制の構築が急がれる」とされました。

徳島市としても、委員の皆様方のご意見をお聞きしながら、来年度の阿波おどりの円滑な開催に向けて、新たな運営体制等の構築を最優先に進めていきたいと考えておりますので、ご協力をお願いできればと考えております。はじめに、事前に頂いたご意見をまとめておりますので、事務局から報告し、その後、皆様からご意見を頂戴したいと思います。

(事務局)

資料4 検討委員会報告書に対するご意見について説明。

(内藤座長)

多様な意見を頂いておりますが、同じような意見でも、違う観点からの意見でも構いませんのでご意見を頂ければと思います。

まずは、阿波おどり団体の方からご意見をお伺いしたいと思います。徳島県阿波踊り協会の池田委員いかがでしょうか。

(池田委員)

この報告書を見て、詳細に分析していただいております、以前の体制は問題があったということに改めて認識しました。また、今後も問題が山積していることを強く感じました。ただ、来年、再来年と阿波おどりを開催するにあたって、新しい運営体制は必要だと思っております。徳島市、徳島県も含めて、阿波おどりというものが、市民・県民の財産であるということをご様に認識していただけるきっかけでもあったと思っております。新型コロナウイルスの状況もありますが、早急に進めていかなければ、阿波おどりがどんどん衰退していくのではないかと危惧をしています。

新体制に移るタイミングについて、実行委員会の委員は、いつ頃、どのような形で選任するのですか。

(内藤市長)

阿波おどりが、県民・市民の財産というのは、その通りだと思いますし、徳島市もそのような考えでありますので、徳島市としても適宜情報発信をやっていきながら、阿波おどりについて考えていきたいと思います。

新しい実行委員会について、事務局から何かありますか。

(事務局)

新しい実行委員会委員の選任や設立時期等につきましては、本日の意見を伺いまして、徳島市において、令和3年度中に方針を決められるよう進めていきたいと考えております。

(内藤市長)

次に、阿波おどり振興協会理事長の山田連長さんいかがでしょうか。

(山田委員)

事務局から検討委員会報告書に対する意見という形で出席の委員も含め、欠席されている委員の意見を紹介いただきましたが、皆様が言われていることについては同感です。重複もあるので、私の方からは省略をさせていただきたいと思いますが、主に佐藤委員、犬伏委員、森浦委員、高木委員、鈴江委員の意見と同意見であると申し上げさせていただきます。

池田委員からもありましたが、今までの運営体制等についての問題点が明らかになったということは事実ですが、この報告書が取りまとめられるまでに数多くの資料が提供されたと推測されます。そういった中で、県庁所在都市で観光協会がないのは徳島市だけであり、公的な団体が主催すべきではないかというご意見もいただいておりますが、それに際して、なぜ観光協会が単独で責任を取って破産に追い込まれたのかということについても、この報告書を作成するまでの間に資料提供があったと思っています。また、委員の皆様方が報道等の中で知られていないことがたくさんあると思います。取りまとめられたこの報告書だけでも市民の方に随時ご覧いただける部分があれば、市民の皆様のお考え方も変わってくると思います。

徳島新聞社で報道された内容では、ここから先の問題に触れていないのではないかと思います。例えば、私が阿波おどり振興協会の理事長となって以降、平成18年の旧阿波おどり実行委員会で初めて累積赤字が3億数千万円あるということに気付きました。森浦委員も毎年出席されていたと思います。これはどうしてだということで、当時の役員に意見をさせていただいたことがあります。自分も含め、市民の皆様は阿波おどり事業で3億円もの赤字が出ていることは考えられませんでしたし、「膨大な金額ではないですか」と指摘しましたが、当時の担当者からは、栈敷の費用や悪天候などが赤字の要因というようなことを聞かされていました。現場に関わって者として、前夜祭や選抜阿波おどりもそうですが、栈敷も結構な人気があって、どうして赤字が出るのかが、信じられませんかということで、もう少し会計処理を明確にしながら、早急に3億数千万

円の赤字は解消すべきではないかと申し上げました。一番効果が早い手立ては、名士の方や徳島新聞社の社長もおいでるので、つながりの中で県内の大きな企業が徳島には数多くある。そういったところから、場合によっては寄付をいただいて、まずは3億数千万の赤字を返済していくべきではないか。まずは3億円の赤字を解消して1からきちんとした会計処理ができる形でやっていくべきではないかと平成18年当時に申し上げました。

寄付について、その当時、徳島新聞社の社長が実行委員会の実行委員長で、徳島新聞社が公益社団法人から一般社団法人に変わると言われていた時期だったと思いますが、それであれば、保有する現金や資産に余剰があり、国に返すよう求められるのであれば、3億円もの金額にはなりますが、徳島新聞社から寄付していただくことはどうですかということを申し上げました。その際、寄付贈与等はできないという明確な返答でした。

このこととは時系列が違いますが、遠藤市政になり、観光協会が破産することとなった時に当時の徳島新聞の社長は道義的な責任で、法的な責任はないとコメントをされていました。また、テレビ番組の中で遠藤市長が「徳島新聞社は、責任を取って3億を出されました。」と明確に報道の中で言われています。この3億については、徳島新聞社が一般社団法人になった時点において自由に使えるお金ではない130億円の中から、公的な部分として監督する徳島県の認可を経て、徳島市の基金に3億円を出したものであって、徳島新聞社が直接3億円を返済したのではないことについては、皆様はご存知ないと思います。

そういった中で、徳島市の債務保証があるということで、観光協会、徳島新聞社の両主催については、負債というものを考えずに、親方日の丸の中で運営している結果がこの長年におよぶ3億数千万円の累積赤字に至っているのではないかと申し上げたところです。また、平成18年当時、寄付が難しいのであれば、大手企業からネーミングライツということで栈敷を提供して年間1,000万円とした場合に4つの有料栈敷で4,000万円となり、10年で4億円になるのではないかと私から提案させていただいたこともあります。

一部、飲料関係の会社が栈敷で飲料を販売すると、その他の飲料会社が販売できないようなことがあって、例えば徳島新聞社のスポンサー的なところに非常に影響を及ぼすというようなことを事実かどうかは別として小耳に挟みました。その理由が本当かどうかは別にしても、そういったことが論議されないまま今日に至ったということを委員の皆様方には知っていただいた方がよろしいのではないかと思います。

そして、マスコミに報道されていないことについて、委員の皆様だけでも知っていたらいいと思い、資料を持ってあがりました。平成27年、平成28年、平成29年の3年について、概略を報告させていただきたいことがあります。4つの有料演舞場、あわぎんホールで行われている選抜阿波おどり、アスティとくしまでの前夜祭のチケット収入が約2億円弱であり、この3年間同じくらいの金額が続いています。補助金につ

いては、シャトルバスが1,000万円程度、元町・両国・新町の各無料演舞場等の運営費に対して各500万円程度が出ており、合計で3,000万円程の補助金が出ています。遠藤前市長は補助金を出すように言われていましたが、その合計金額は年間、平成27年から平成29年を見ても、各年で約3,000万円です。

この3,000万円程の補助金に対して、無料演舞場の運営費やシャトルバス事業等にかかる費用は約6,000万円となっています。そのため、補助金で行う事業が3,000万円のマイナスが毎年出ています。そのため、先程申し上げました前夜祭を含めた5日間のチケット料収入の約2億円の中で補っているのが実態です。場合によっては赤字を出ることがあったかと思います。そういった中で、この報告書の中でも指摘があったように栈敷の補修について、例えば、平成28年には藍場浜演舞場の栈敷で大規模な補修が行われ、その費用が約3,000万円かかっており、その3,000万円が単年度で会計処理されています。この年度の収支報告書を見ると810万円のマイナスになっていますが、その3,000万円を引くと2,200万円の黒字が出ていることとなります。

翌年の平成29年については、2,400万円の黒字が出ています。これを、遠藤前市長が行った会計監査において、こういった不透明な会計処理が行われていたことや指定管理者ではなくなったことを理由に観光協会では到底阿波おどりの運営はできないということで破産に追い込んでいくことに繋がってきます。つまり、少なくとも直近の平成29年、平成28年を見ても黒字です。

(喜多会長)

内藤市長、途中になりますが、今日は何を決める会議ですか。

これまでの経緯を説明することは大事で、山田委員の意見は正論ですが、各委員が1時間ずつ意見を言っていったらどうなりますか。

(山田委員)

先に、他の委員の意見をお伺いし、16時30分までの残りの時間で意見を述べさせてもらいます。しかし、阿波おどりの根幹の部分を委員皆様が知っておかなければ、議論ができないのではないのでしょうか。こういった過去の経緯を理解した上で、新しい運営について考えていかなければ、この会議は何になるのですか。

先程、池田委員から実行委員会がいつ決まるのですかという意見がありましたが、新しい運営体制が決まってから、そこが中心となって実行委員会を招集していくべきものではないですか。

喜多会長がどうしてそんなことを言われるのか、不思議ですが、踊りに関しての知識や今までの経過を理解していただいた上で、これからの阿波おどりを考えていかなければならないと考えておりますので、私が委員皆様にお示ししている意見が必要ないのであれば止めますが、そのような会議でよろしいのでしょうか。

(内藤座長)

委員皆様には事実を知っていただいた方が良いということは同感です。ただ、会議の時間が限られており、委員の皆様全員からご意見をお伺いしたいということもありますので、山田委員がおっしゃられていたように、まずは全員の意見をお聞きして、それから時間が余るようでありましたら、山田委員に引き続きご意見をお伺いしたいと思います。それでよろしいでしょうか。

(全委員)

委員が了承する旨の返事あり。

(内藤座長)

次に、徳島県阿波おどり保存協会の喜多会長いかがでしょうか。

(喜多会長)

今日の意見は、保存協会の意見をまとめた発表ではないですが、今日の委員皆様の意見を聞いて、持ち帰って検討させていただければと思っております。

報告書については、色々な歴史も含めて非常によくまとめて、今後どうしていくのかということが、本日の会議の1番の目的ではないかと思えます。

話が少し外れますが、コロナが第5波まで大きく拡大して、現在、徳島県では新規感染者が「0人」ということが38日と続いています。次の夏の阿波おどりの時期にも、第6波が拡大するかは未定ではありますが、専門家の話では、時期は別として必ずオミクロン株も含めて感染が拡大するということが言われています。もちろん阿波おどりだけではないと思っておりますが、そういったことを前提に来年度の夏の阿波おどりを進めていかなければならない、いつもとは違う阿波おどりになる、もしかしたら中止するかもしれないということも想定のもとに進めていかなければならないと思っております。

私も祭りが非常に好きでありまして、東北の方から色々祭りに参加させていただいております。そういう中で、今までの徳島市とずれているかもしれませんが、今は棧敷が中心の阿波おどりとなっています。阿波おどりはやはり「祭り」ですので、徳島市の街の雑踏(喧騒)を含めた踊りが1番大事ではないかと思えます。棧敷の関係もありますけれども、赤字の原因の1つであります棧敷の管理、新設も含めて、検討しなければならない重要な事項であると思っております。本来の祭りに戻すことが、阿波おどりにとってすごく大事なことの1つだと思っておりますし、報告書にもありますように、まずは着実に1歩踏み出す、小さく始めるべきであると書かれておりますが、これはすごく大事なことであります。

今後どうすると言えば、徳島市のリーダーシップのもと、徳島市民が一丸となって、来年の阿波おどりは、特にそういう観点が大事だと思います。徳島市、もしくは新しい観光協会が中心となって、今後の阿波おどりを一層盛り上げるためにどうしていくかということのをこれから次の機会に皆様が集まっていただいて、相談することが大事なのではないかと思っております。

(内藤座長)

喜多会長がおっしゃられたように阿波おどりは栈敷だけではなく、街中の阿波おどりも非常に大事だと思います。今年の田宮の陸上競技場で開催したときに栈敷についても、栈敷で踊りたい、そういったご意見の方が多くいらっしゃることがわかりました。小さく始めるということですが、コロナの感染状況も見ながらやっていかなくてはいけない状況だと思います。そのことも含めて今後議論していければと思います。

栈敷等の部分も含めて、旅館・ホテルの代表者として森浦委員さんご意見はありますか。

(森浦委員)

先程の喜多会長のご意見でも出ましたけれども、観光協会というのは徳島県内でもこの市町村にもあります。観光協会の理事長たるものは政治の場に顔を出すと、今年までの選挙を含めて、結果に関わらず問題が起きてくると思います。新しく協会等を作るにあたっては、政治的な問題には関わらないという事柄を付けて、選ぶのは市長が選んでいただき、健全なやり方、忖度の無いような観光協会を作って、その下部組織として、この夏の阿波おどりをみんなが支えていくような組織作りを先にした方が良いと思います。

これだけ揉めてきたら政治の問題になっていると思いますので、我々観光業界は色々な業種がありますが、阿波おどり連の方も含めて、被害者になっている気がします。それを解消して、みんなが楽しくやれるような方法を徳島市のトップである市長に色々考えていただいて、できるだけ観光協会を作って頂きたいと思います。観光業界は、経営自体もコロナが重なって大変な時期になっていますので、ぜひ、来年の夏は開催していただきたいと思っています。

(内藤座長)

森浦委員の意見は、資料4にも入っていましたが、新しい観光協会的な組織を作って、その役員は政治家の後援会会長ではない方が望ましいということですね。

次に、木内委員、ご意見いただけますでしょうか。

(木内委員)

検討委員会の報告書に関して、資料4のご意見があるように深いところまで検討されていると思います。阿波おどり事業について、累積赤字が膨らんでいたことですが、先ほど山田委員がおっしゃられたように、無料演舞場やシャトルバス事業などのマイナスの部分の押し付けられたことで赤字が膨らんできたと思います。こういったことが報告書にも書かれていますが、阿波おどり事業が観光業や宿泊業、飲食業に与える経済効果を考えると阿波おどり事業単体でプラスや収支均衡をするようにもっていくというのは、財政負担ということで行政がその辺を見て判断すればいいのではないかと思います。どうしても収支をプラスにしなければならないということをし見直し

の方が良いかと思えます。

今後の阿波おどりに関しては、毎年8月に開催することから、実行委員会を立ち上げることを考えると、早く議論を進めていかなければならないと思うのですが、しっかりとした組織ができるように何年かかけて、じっくりと作っていかねばと思います。

(内藤座長)

阿波おどりを運営しようと思うと、棧敷の管理、荒天時のリスク管理、シャトルバスや無料演舞場などの赤字になる要因が出てきますが、市や県全体に対する経済効果を考えると、阿波おどり単体だけを取って赤字と考えるものではないと思います。

もちろん収益構造も考えなければいけないと思いますし、荒天のリスク管理や棧敷の管理というのはコスト(費用)として確実に上がってくる部分だと思えますので、基金等も含めて考えていければと思います。

次に、鈴江委員、ご意見はございますか。

(鈴江委員)

今までの皆様のご意見のとおりだと思います。この報告書につきましても本当に短期間において、核心を突いた検証をしていただいたと思っています。先ほど山田委員が言われましたように、市民の皆様は阿波おどりがずっと赤字という認識だと思います。市民の皆様にも事実を知ってもらう必要があると思いますし、我々も当然知らなければいけないと思います。それを知った上で、やはり阿波おどりは市民のためのお祭りなので、そういったことを踏まえた上で新しい実行委員会や運営体制を作っていくことが非常に大事だと思います。

(内藤座長)

徳島市としてもしっかりと情報発信をしていきたいと思えますので、委員の皆様方も今の状況を含めてお知らせいただくよう、ご協力をお願い出来ればと思います。

次に、利穂委員、ご意見はございますか。

(利穂委員)

先程から委員皆様のご意見のとおりだと思います。阿波おどりは本県を代表とする観光資源でもございます。特に徳島市の阿波おどりにつきましては、本県の阿波おどりの代名詞ということで、観光面からすると非常に経済効果の期待が高いということもございまして、本県の文化を体験していただく、最も重要な期間、重要なコンテンツであると考えております。今回、検討委員会より提出されました報告書の中にもありますが、持続可能な阿波おどりの運営体制の構築について示されており、観光のみならず市民の阿波おどりということで、文化や地域の活動の発展につながるような阿波おどりになればと期待しております。

(内藤座長)

持続可能な運営体制を作るために2年から3年ほどかけて運営体制を構築していければと思います。

鈴田委員、ご意見はございますか。

(鈴田委員)

検討委員会には事務局として関わってまいりました。この度の報告書については、先の12月議会の本会議、所管の産業交通委員会にも報告をさせていただいており、議員の先生方からも意見をいただいております。先程、山田委員もおっしゃっていたのですが、過去の観光協会の破産に至った時期のことや当時の混乱を議員の皆様もよく覚えていただいております。過去の悪かった点を見過ごすのではなくて、改めて再検証し、同じ過ちを繰り返さないということが重要であり、しっかりと検証すべきところのご意見をいただいているところです。

(内藤座長)

次に、矢田委員、ご意見ありますでしょうか。

(矢田委員)

皆様方のご意見のとおりだと思いますが、端から見ても政治的な部分に巻き込まれて大事な徳島の阿波おどりのブランドがかなり傷ついたらと改めて思いました。そういった意味で新たな体制については、傷ついたブランドを修復して全国、全世界の皆様に昔の阿波おどりが戻ってきたと思っていただけるような開催になればと思います。徐々に開催する点には私も賛成で、一度にやりすぎるとコロナの状況も見通せませんので、慎重にやっていきたいと思っております。

新体制が上手くいく肝は色々なステイクホルダー、それぞれが正しいことを言われると思うのですが、その辺の大義について、徳島が一つになれば、たくさんの観光客がお金を出すに値する踊りがまた戻ってくるのではないかと思っております。

(内藤座長)

徳島は阿波おどりの聖地だと思っておりますが、ブランドとして構築していくためにも阿波おどりを守っていかなければいけないと思います。運営体制もそうですが、みんなの想いが一つにならないと、みんなで街を盛り上げようという風にはならないと思いますので、この街をどうしていくのかということも含めて考えていければと思います。

それでは最後に山田委員お願いします。

(山田委員)

喜多会長から栈敷の赤字というご意見がありましたが、栈敷は決して赤字ではありません。そういうところを皆様方にお話をさせて頂いておりますので、知らない話であれば聞いて頂けたらと思います。

例えば、先ほどご説明した2億円程のチケットの売り上げは主な収入源として寄与しており、それに補助金を加えた2億4,000万円から5,000万円程の予算で運営されておりました。ところが民間委託に移行した翌年から総事業費が3億円に跳ね上がっています。これは本末転倒ではないでしょうか。そういうところを市長中心に見直

して、健全な阿波おどり運営をやっていこう、市民の手でもっと独自の阿波おどりを構築していこうということで集められたのが、このネットワーク会議であると思っています。私としては、阿波おどりについて、一番分かり易い方法で皆様方にお知らせさせていただきただけです。

もう一つだけ聞いておいていただきたいのは、3億数千万の累積赤字があるというところを親方日の丸というような言い方をしましたけども、そこに主催者側の怠慢、モラルハザードという言葉が適しているのではないかと思います。そう言った甘えがあったのではないかと思います。いくら損失が増えても市が補填するので構わない、こういう体制が累積赤字を4億数千万に膨らませた一つの要因であることは間違いない事実だろうと思っています。

喜多会長もご存知ないことをさらにお話させていただきます。

～ 喜多会長退室 ～

(山田委員)

2015年のアスティとくしまでの前夜祭の決算は約2,000万円の赤字が出ています。これは過去、2012年から2014年までの間は同じのぐらいの赤字が続いてきたと思います。当時の実行委員会にいた私は、これだけ満員の観客がいるような前夜祭がどうして2,000万もの赤字が出るのかを指摘しました。森浦委員もおられたと思います。

このことについて、分析をしてはどうかと繰り返し当時の事務局に確認したことを覚えています。その翌年の2016年には約400万円のマイナスとなり、1,500万円以上赤字が減っていました。昨年と同じように開催してきたのにおかしいのではないかと事務局に問い質したことを覚えています。当時の観光協会の事務局から「徳島新聞社からこれだけ費用がかかりましたので支払ってくださいという枠の中で、人件費が必要なくなったので、1,500万円が浮いてきた」という発言がありました。さらにその翌年には僅かですが黒字に転換していました。

我々は、踊り団体として長年関わってきて、運営の仕方が変わったとは肌で感じたことはありません。実行委員会で指摘した翌年に赤字が1,500万円減り、その翌年にも500万円減るというのはおかしいと思います。

先ほど、喜多会長が栈敷の赤字を解消しなければいけないと言われていましたが、栈敷は決して赤字を出していません。補助金事業等の運営の中で赤字が出ています。それに加えて、億単位の栈敷の購入などが減価償却をされずに単年度の処理や3年間での減価償却処理がされていたから、これだけの累積赤字が出てきています。これは会計上おかしい処理だと思っています。

また、誤解を招くといけないと思いますが、報告書の中に徳島市の財政規模からすれば、僅か数パーセントという累積赤字額についてはあまり驚くような額ではないとあり、市民感情からすると、どうかと思われることもあるかもしれませんが、昭和47年

以降、半世紀かけての累積赤字が4億円となったことについて、平均すると1年あたり、900万円程度になります。その辺については、ホテル業、旅館業、徳島県内の観光、飲食業、そういった方々への寄与を考えると、これまで観光協会中心に徳島新聞社と開催してきたことについては、そんなに責められるようなことではないと考えています。

このことについて報道等がされていないので、委員の皆様にも知っていただいて、何か聞かれた時には「違いますよ」と言っていたきたいと思い、この場を借りて発言をさせていただきました。そういう意見もあって、未来に向けた阿波おどりがあり、マイナスの部分プラスにしていくという理論に繋がっていくものと絶対確信しています。

また、委員を選ぶのは市長という意見もありましたが、徳島市も主催者から撤退するという事を明言されており、新しい団体がどこになるのか分かりませんが、決まった段階で皆様方を含むもう少し多い人数の意見が意見を出していただける、年代層も若年層からご高齢の方までを考えた、意見を求めていける実行委員会を作っていたきたいと意見を申し上げておきたいと思います。

先程、鈴田委員もおっしゃられましたが、この報告書に基づいて、なぜ観光協会が破産したのか、これは政治的な部分が非常に色濃く出てくることは報告書読んで明らかだと思いましたが、議会、行政の場で再度、報告書に基づいて検証し、新しい運営体制を作って、旅館、行政、飲食業界にもっと寄与できるようなイベントとして阿波おどりをやっていければと思います。

先程、喜多会長がおっしゃっていたことで、阿波おどりは栈敷だけではないという意見については同意見です。分断でなくて区別をしながら運営していく方法を皆様方と考えながらやっていくことが望ましいことと思います。主催する団体については各委員が言われておりますように、公的な立場で、ある程度予算組ができる責任を負えるような団体を作って、そういうところに運営を任せていただき、私どもにできることがあれば、積極的に協力していきたいと思っております。

(内藤座長)

様々な経緯とご意見をありがとうございました。

皆様のお考えをまとめると、みんなが楽しめるような持続可能な阿波おどりの運営体制を早急に作った方がいい。また、阿波おどり事業を単体で考えるのではなくて、徳島にとってこの阿波おどり事業、阿波おどりというものがブランドとしても、どういうものなのかをみんなと一緒に考え直すいい機会だと思います。

委員の皆様から様々なご意見をいただきましたけれども、来年度の阿波おどりの開催に向けて新たな運営等の構築にいただいたご意見を生かしていきたいと考えておりますので、引き続きご協力をお願いできればと思います。

また、この会議が終わった後でもご意見等がございましたら、事務局までご連絡をいただければと存じます。

本日の議題については以上となりますが、議題以外でご意見はございませんか。

(森浦委員)

再度になりますが、早く観光協会を作っていただきたい。我々観光業界としても資料4にもありますように、中村委員の意見にも観光協会がないのはおかしいとあります。また、みんなが望んでいると思います。

徳島市はかなり遅れています。観光客の入込も全国ワーストであると思うので、そこから抜け出さないといけないと努力しています。池田や鳴門よりも遅れています。そういう面でも徳島市の人口は徳島県の3割、4割を占めているので、頑張ってくださいと思います。我々も一生懸命努力しますので、よろしくお願いします。

(内藤座長)

力強いお言葉ありがとうございます。県庁所在地の中で観光協会がないのは徳島市だけということで、「阿波おどり」というキラークンテンツを持っているのにすごくもったいないと私自身も感じています。例えば阿波おどり大使などといった事業もなくなっており、そういった事業は徳島市だけではできない部分もありますので、皆様からいただいたご意見をもとに運営体制等を構築していきたいと思います。

ご意見等も出尽くしたようですので、以上をもちまして第6回阿波おどりネットワーク会議につきましては、終了となります。

委員の皆様方におかれましては、大変お忙しい中、今年度、これまで計6回の会議にご参加いただき、貴重な意見をいただきました。本当にありがとうございました。

新型コロナウイルス感染症により不透明な状況の中、今夏の「2021 阿波おどり～ニューノーマルモデル～」を無事開催できましたのも、委員皆様方のご理解・ご協力があったからこそ成功であったと考えております。

今後においても、新たな運営体制の構築等々ございますが、阿波おどりを未来についでいくために、職員一丸となって、市民とともに阿波おどりの振興、まちづくりに取り組んでまいりますので、引き続きご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。